

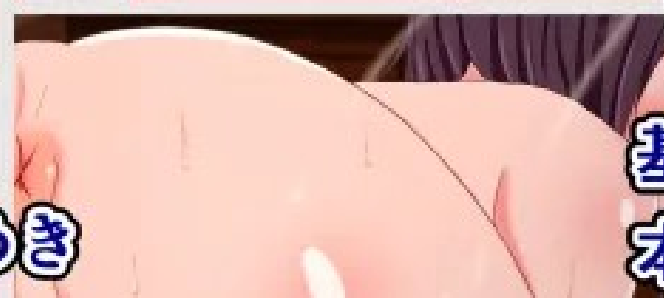
我慢のできないふたなり彼女は
私に謝りながら何度も何度も中出しする



私が転校した先で仲良くなったのは

引っ込み思案なふたなりクラスメイト……？

イラスト: きぎめき



基本CG6枚
本編50枚程度

おーいみんなー

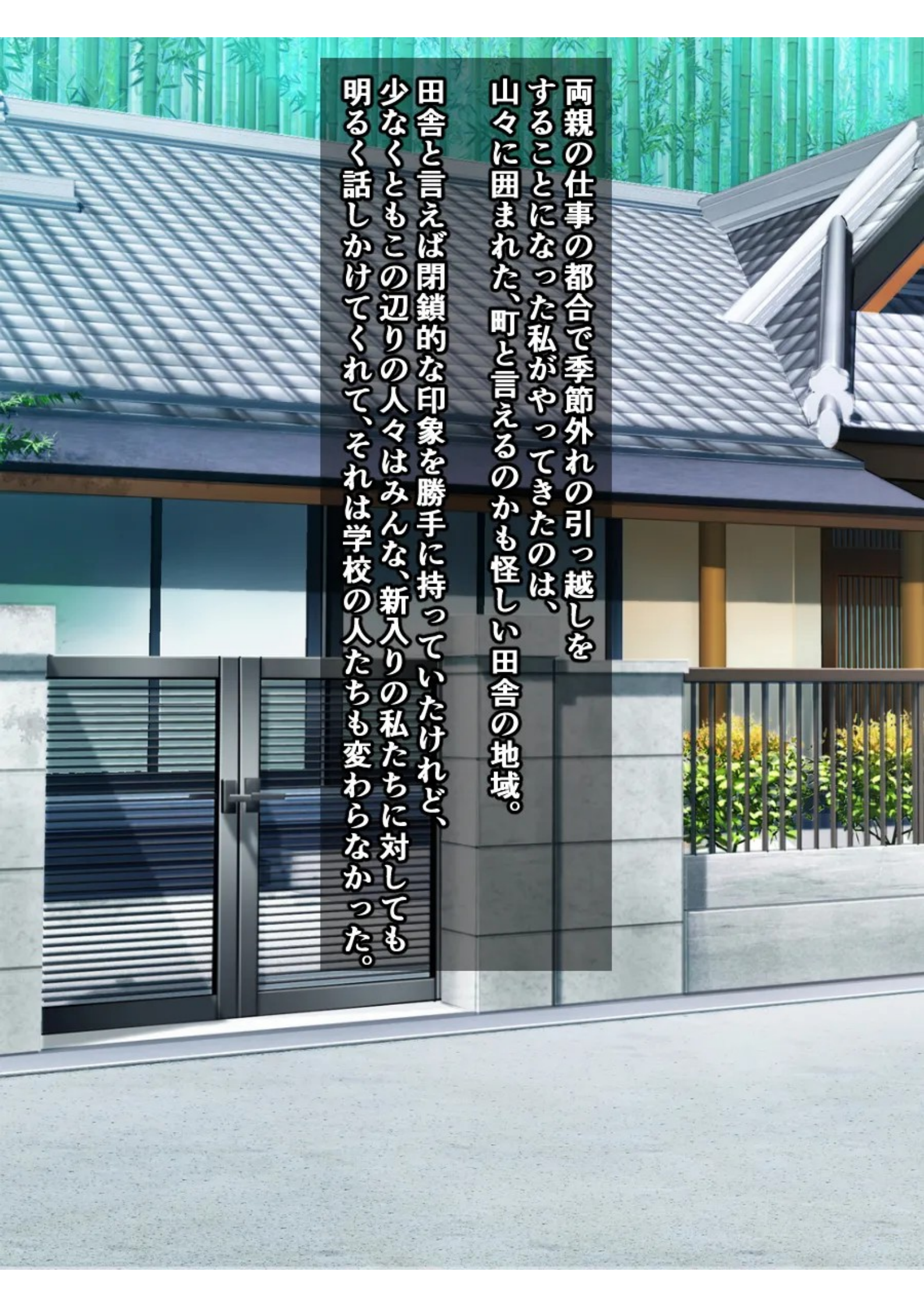
今日は転校生を紹介するぞー
入ってくれー

はい

ガラガラガラ

はじめまして、××県から来ました。
○○です

よろしくお願ひします



両親の仕事の都合で季節外れの引っ越しを
することになった私がやってきたのは、
山々に囲まれた、町と言えるのかも怪しい田舎の地域。

田舎と言えば閉鎖的な印象を勝手に持っていたけれど、
少なくともこの辺りの人々はみんな、新入りの私たちに対しても
明るく話しかけてくれて、それは学校の人たちも変わらなかった。

ただ、一人を除いて。

あのー、外山さん…だよな？
外山ミコちゃん

?

へ？



は、はい…:そうです

あの、私今日転校してきた〇〇って言うの
それで、ちょっとお願いしたいことがあるんだけど…:

あのね、私ちょっとだけ体が弱いから、
保健室の場所を聞いておきなさいって言われてて

外山さん、保健委員だよね？
よかったら、案内とか…:してもらってもいいかな？





ありがとう

わかりました、私なんかでよかったら

この子の名前は外山ミコちゃん。私の隣の席に座っている保健委員の女の子で、クラスの他の子たちに比べると、すごく引っ込み思案なのが印象的だった。

この先が、保健室なので…もしなにかあったら、ここに行けば大丈夫です

そうなんだ、ありがとう
すっごく助かった



い、いえ…お役に立てたならよかったです
私もよく、ここに来るので…

へえ、外山さんも体弱いのか？

そういうわけじゃ、ないんですけど……



そうなんだ？

ねえ、あのー、よかったら
ミコちゃんって呼んでもいい？

！ えっと…はい、大丈夫です

それに、私に敬語も使わなくていいよ、
私が案内してもらってる側なんだから

わ、わかつ…た

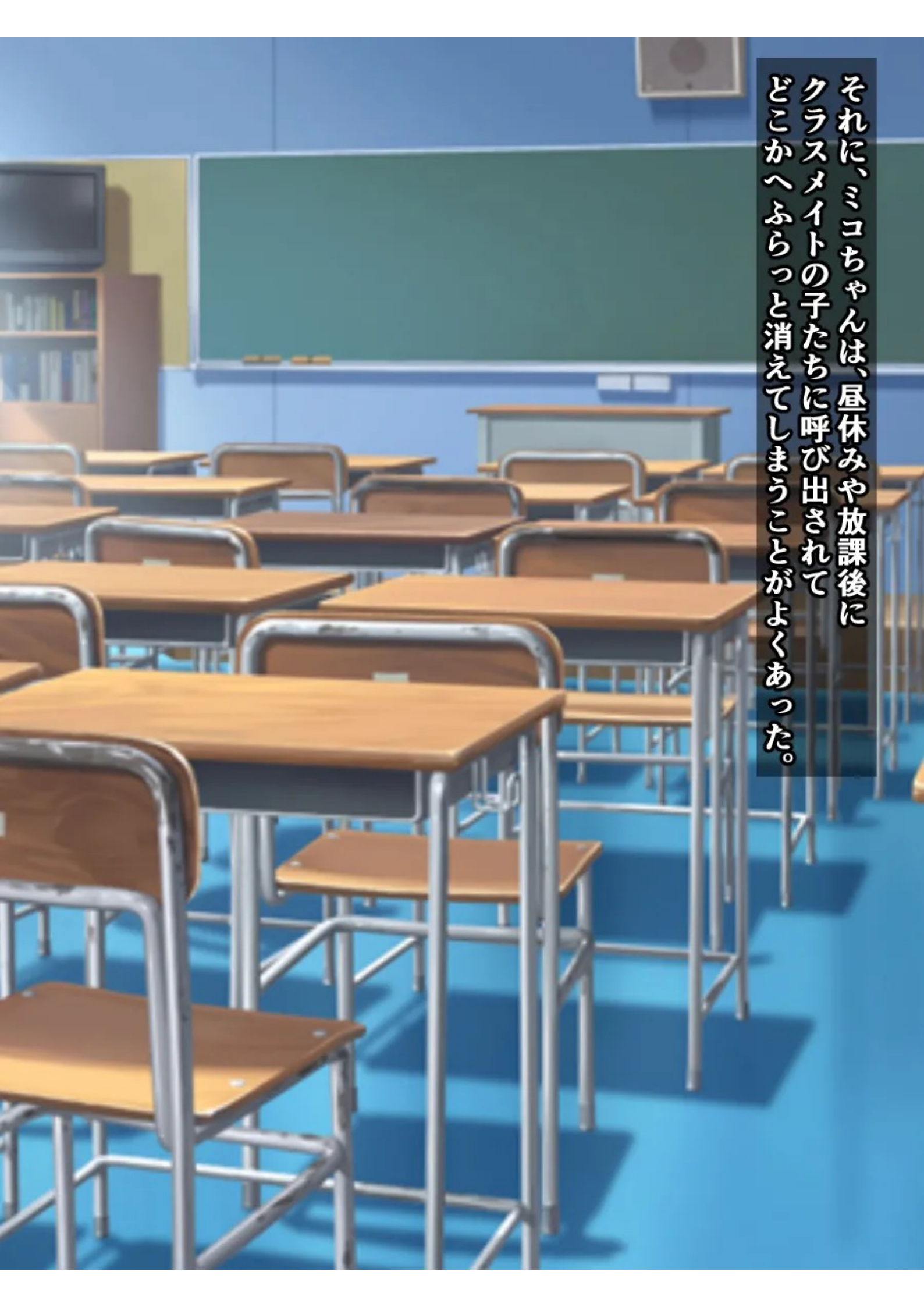
あはは



これをきっかけに、私とミコちゃんは
学校でも少しずつ話すようになり
私にとっては一番仲の良い友達になった。

だけど、なんていうか、そうして仲良くなればなるほど…
彼女に向けられる他のクラスメイトたちの視線が、
どうも普通とは違うような感じがして





それに、ミコちゃんは、昼休みや放課後に
クラスメイトの子たちに呼び出されて
どこかへふらっと消えてしまうことがよくあった。

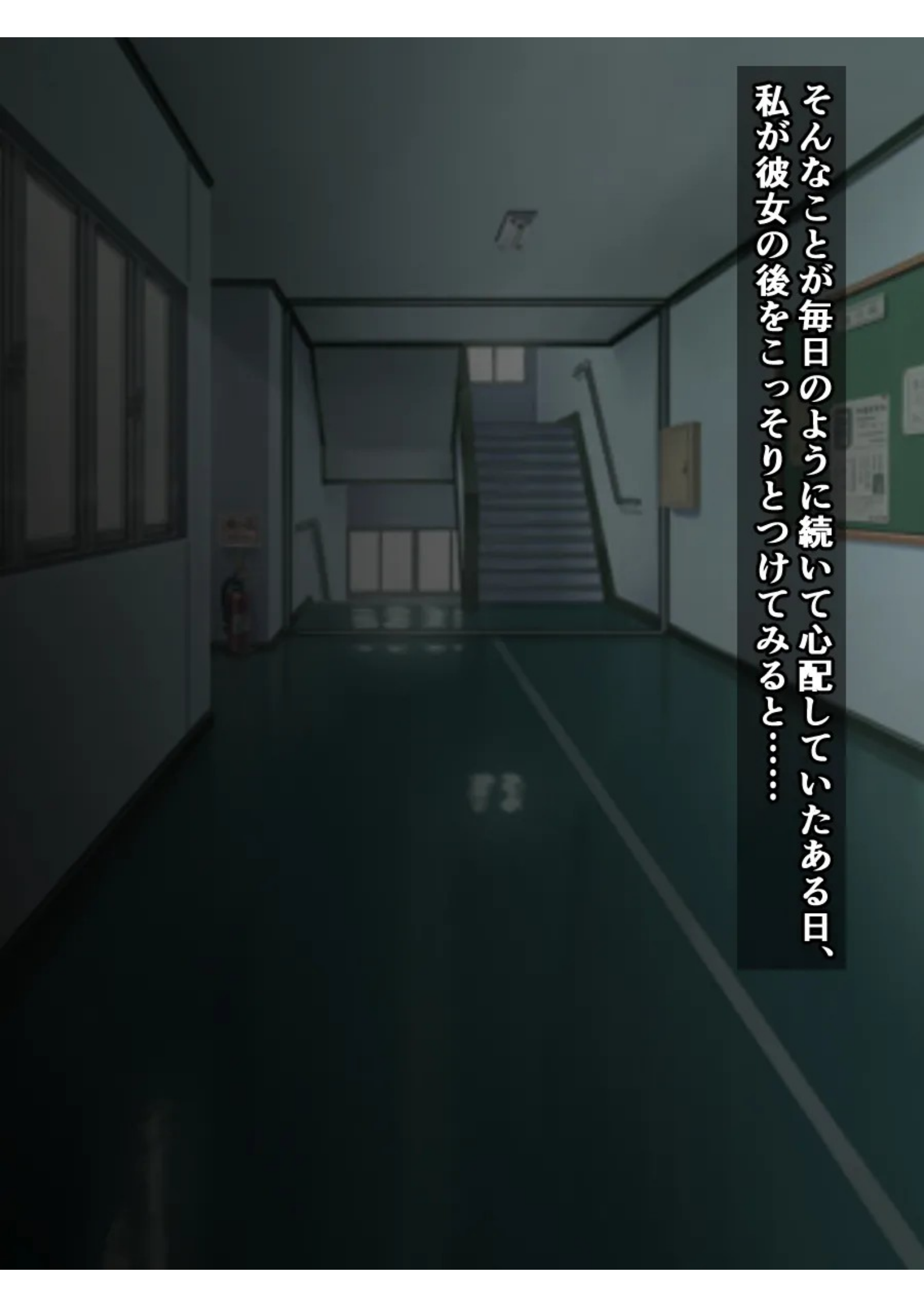
その後帰ってくる彼女はいつも顔を赤くして、
すごく疲れた様子だったから、



ハア

ハア

心配になって聞いてみたけど、なんでもないよと言うだけで、
私には何も話してくれない。

A dark, dimly lit school hallway. In the background, a staircase with a metal railing leads up. The walls are light-colored, and there are windows on the left side. The floor is dark with some white markings. The overall atmosphere is somber and quiet.

そんなことが毎日のように続いて心配していたある日、
私が彼女の後をこっそりとつけてみると……

そこには、周りを囲んだクラスメイト達に服を脱がされ、

ハア

ハア

シク

シク

シク

あ...

あわ...

そしてどういいうわけか生えていた、
自分のおちんちんを必死にこする
ミコちゃんの姿があった。

シク

わっ…

ほらミユウ、しっかりこすりなよ〜？

じゃないとまた、前みたい
に授業中に勃起しちゃうよ(笑)

ムズッ…

うっ…

うっ

あたしら、あんたがちゃーんと
金玉の中身空っぽにするまでは
帰さないからね

う……ああ、もう許してええ……

シク

シク

シク

シク

シク

出したら許してやっから、
ちやつちやつと射精しなつての

ほら出ーせ！ 出ーせ！ 出ーせ！！

わわわ
わわわ
わわわ

お、きた？ なんかびくびくしてるし、
そろそろかな？？

う、あああ、見ないで……あああ、ダメエエ

シク

シク

シクシク

シク

シク

シク

シク

ハア

うーわ、この量やっぱー
あんた一体どんだけ貯めてんだよ

ほんとほんと(笑)

ドッ…

ドッ…

ハア

ハア

ハア

ま、いいや、これで授業中くらいは
我慢できるんでしょ？

あたしらもう行くから、
あと掃除ちゃんとしときなよー(笑)

ドッ…



アジクシクシ

か、隠れなきや…

しかし、あいつもほんと
ご苦労さんって感じだよー(笑)

毎日毎日使い道のない精子あんだけ
金玉にため込んでさー

あれ全部出したら体重一キロくらい
減るんじゃない(笑)

言えてるー(笑)

ミヨちゃん、大丈夫!?

ミヨ……ちゃん……

ダッダッダッ
……

はあはあ……
あ、あれ……○○ちゃん……

ハア……

ハア……

なんで、ハア……

ムム……

ハア……

シロキ……

トフン……

トフン……





ご、ごめんね...恥ずかしいところ...
見せちゃって.....

わたし.....こんな体だから、
もし、気持ち悪いって思ったら...
その遠慮なく言っ——

そんなことないよ!

え?

ハア

ハア

ハア

アアア...

アアア...



私は、ミコちゃんの友達なんだから…
おちんちんのことなんて気にしないで

……○○ちゃん

それよりごめんね、ミコちゃん
私、全然気づいてあげられなくて

……なんの、こと……？



ミコちゃんがいじめられてることだよ

あ、あれは…その、いじめなんかじゃなくて…
ふざけてるだけ…みたいなの……

ん!?

それをいじめって言うんだよ!!
心配しないで!

これからは、私が守ってあげるから!



それから私は、休み時間になると真っ先にミコちゃんを誘って外へと連れ出し、そこでお弁当と一緒に食べるようになった。

ミコちゃん、ご飯行こ？

う、うん…

クラスの子たちは、放課後にも時々彼女を呼び出すことがあったから、それを防止するために、半ば無理やり教室から引っ張り出し、家まで送ってあげることにもした。

ミコちゃんは、あの子たちからの仕返しが怖いからなのか
何度もいじめじゃないと言っていたけれど、



本人にその自覚がないのなら
なおさら大変なことになる前に守ってあげなきゃ。
そう思って必死に彼女を守っていた。

その結果、彼女は毎日少しずつ顔色がよくなって
体育の時間も、前より明らかに活発に動けるようになっていた。

だけど、そんな生活がしばらく続いたある日……



昼休み

はあはあ……

どうしたの、ミコちゃん……
なんか顔赤いよ

う……うん、大丈夫……

大丈夫じゃないよ、
熱もあるみたいだし……
今日は、もう帰ろう？

私、家まで送っていくから



ねえ私、ミコちゃんを連れていくから
授業が始まったら先生に言うっておいてくれる？

え？ あ、ああ。わかったよ
んじやあ頼むなー



カ
ラ
カ
ラ
カ
ラ
カ
ラ

ミコちゃん大丈夫だからね!

おーい、ミヨー。そろそろトイレ行くよー
ってあれ？ またミヨーいないじゃん

今日あたしらの日なのに

あー、また転校生が連れてったよ
ったく、お前等ミヨーの性処理、転校生に押し付けんなよなー

なんもやってない男子に言われる筋合いないしー

ていうか、そもそもあたしら別に押し付けてないよ？

ミヨーが自分で頼んだんじゃない？

えー、あいつが？？ ま、別に転校生が
きちんと毎日ヌいてやってんならいいけどさー

あいつ、ちゃんと処理してやんないと
大変なことになるし…

ミコちゃん、家着いたよ？
大丈夫？

私の部屋……そっち、だから

うん、わかった。じゃあお邪魔するね



ベッド今整えてあげるからね

スルル…

衣擦れの音？ そっか、ミコちゃん
着替えてるのかな…？

ハッ
…



はい、用意でき——

ミコちゃん……………?

あれ、着替え、もしかしてなかった？

ハア

ハア

ハア

ハア

はあはあ、〇〇ちゃん、ごめんね

え……………?





ハア
ハア

それってどういうふう……

ズチュッ……

ごめんね……

ハア

ハア

ごめんね……

だ、だからね……もう
おちんちん搾りたくてたままないの

ごめんね、○○ちゃん。ごめんね、使わせてね

んんん

ズチュ

んんん

んんん

ズチュ……



フリー♡フリー♡♡♡
あつああああ、気持ちいいよー♡

○○ちゃんの口の中あったかくてヌルヌルで
手でするよりもずっといいい♡♡♡

んぐっ、やめ、シヨちゃん…くるし!

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ズキョッ

ズキョッ

ズキョッ

ズキョッ





くほっ……くほっ……
……うぐっ、すっくら……ニオイ

喉の奥に絡みついて息が
でき……ない……

くほっ……

くほっ……

くほっ……

くほっ……

くほっ……

くほっ……

○○ちゃん、私ね、毎日十回以上射精しないと、このオチンチン、大人しくできないの…

この一週間はズーっと○○ちゃんと一緒だったから……毎日三回くらいしかできなくて…

だからね、まだまだ、何回でも出せるよいいよね？ ○○ちゃん

私、○○ちゃんに…出してもいいよね

ひっ…ま、待って…いやっ、あああ…

だから出していいよね？
いっぱい、いっぱい〇〇ちゃんの中に

二人で赤ちゃん一杯作ろ♡

〇〇ちゃんと私の赤ちゃん、いっぱい！

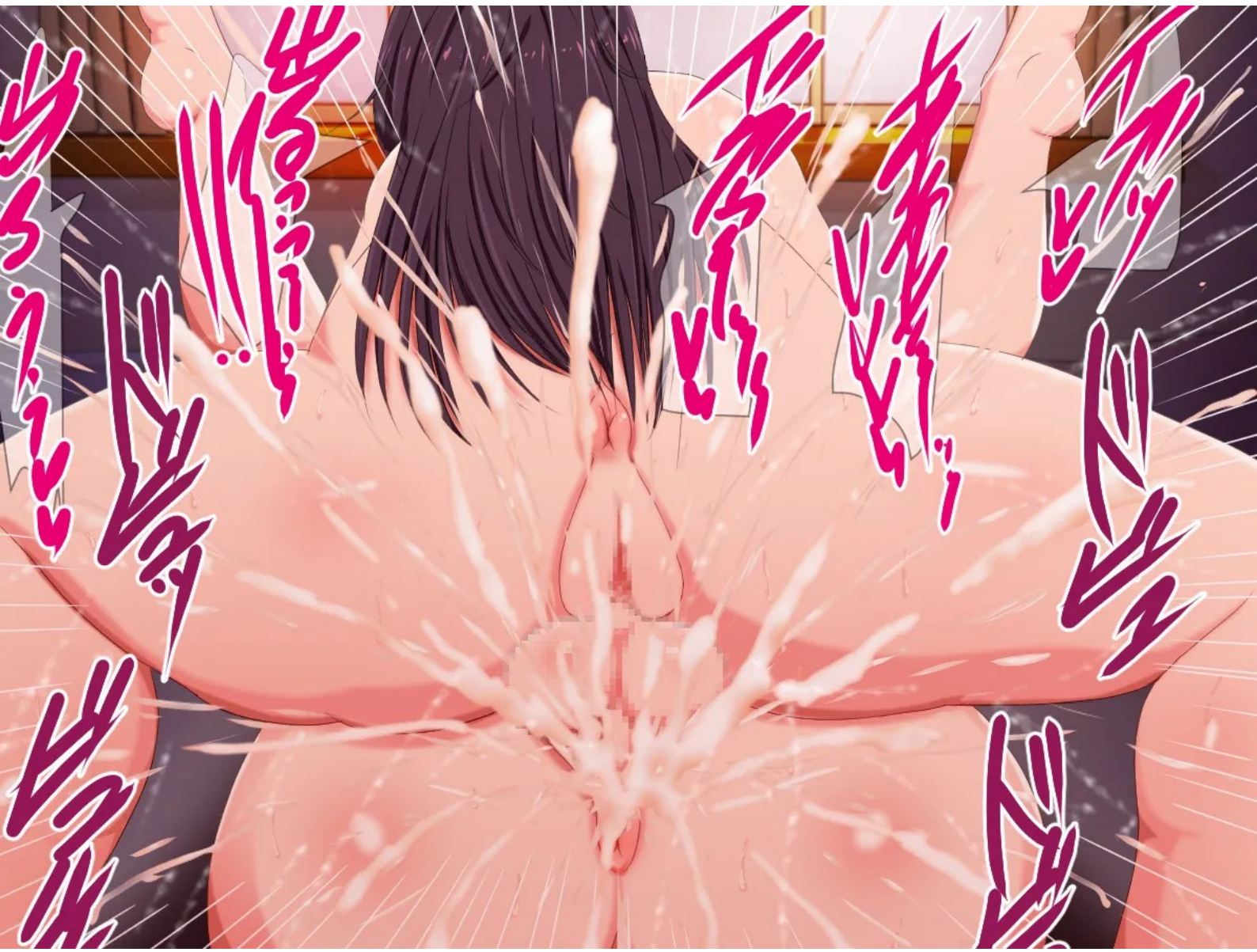
あつ、あああ、もうダメー！！

出ちゃう、出ちゃうよ！！！！

初めてのの中出し、出るっ♡♡♡

あ、あああいつちゃううう！！！！！！







あは、まだまだ……全然小さくならないや
もう一回しよ？ ね、○○ちゃん








そこから後のことは正直言っってよく覚えていません。

ミコちゃんは、その後も半分意識を失っている私に向かって何度も何度も腰を振り、何度も何度も私の中に射精したようでした。



そうして、すべての精液を私の中に吐き終えると、彼女は私におちんちんを挿入したまま、私を強く抱きしめて、眠ってしまい…夜遅くに帰ってきた彼女の両親によって発見されたのでした。

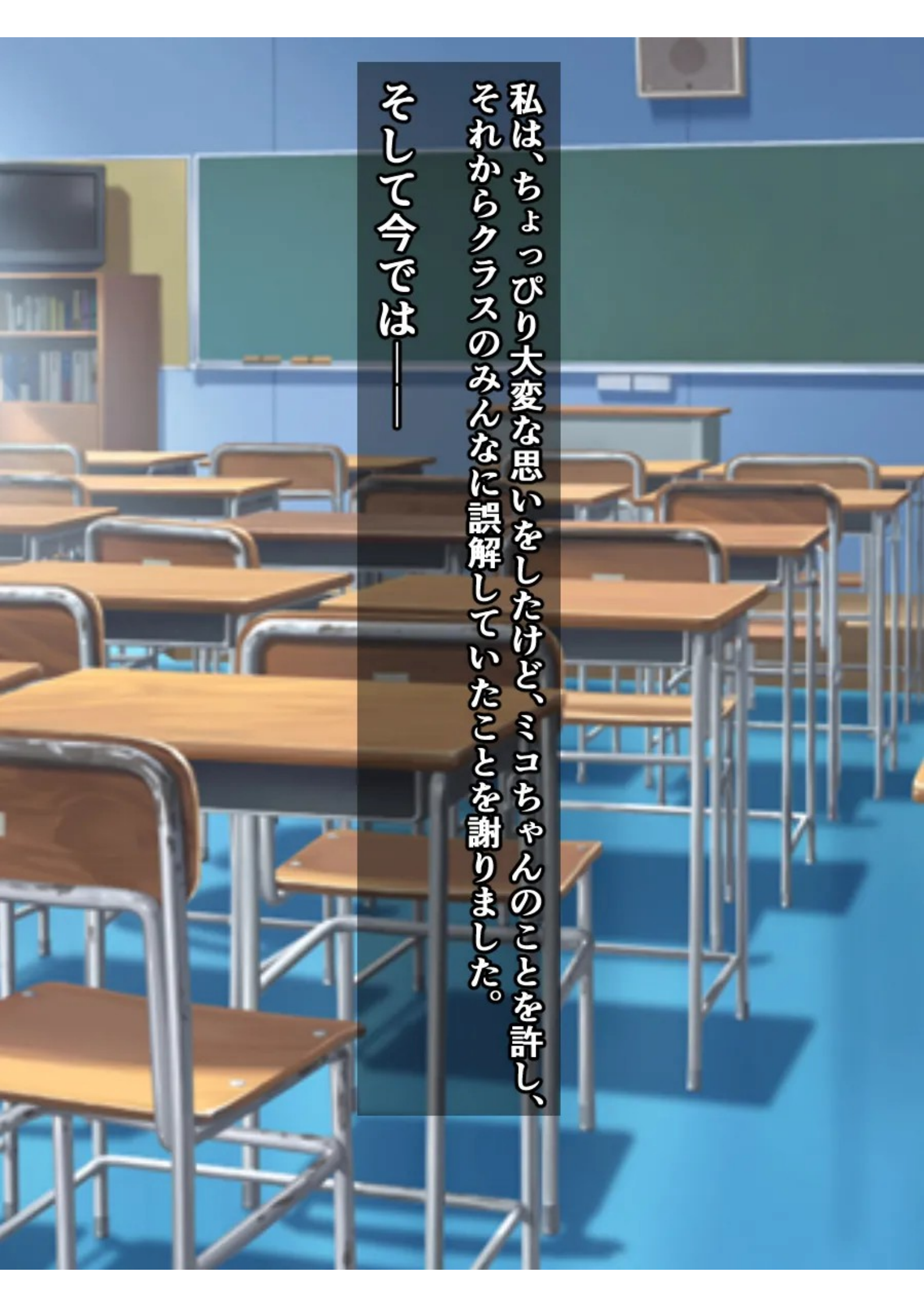
私は彼女と彼女の両親に何度も何度も謝られ、夕飯をご馳走になりながら、こんなことになった理由を教えてもらいました。ミコちゃんのオチンチンは本人が言っていた通り、日に何度も射精をしないと我慢が効かなくなってしまうものだったので、

ごめんなさい!!!
ごめんなさい!!!

ミコちゃん一人では推奨射精量までオチンチンを刺激するのが難しいので、毎日クラスの子が持ち回りで、射精を見届けてあげていたそうです。

クラスの女の子たちが服を脱がせていたのも、
服が精液で汚れないようにするためで、
それ以外の意図はありませんでした。





私は、ちよっぴり大変な思いをしたけど、ミコちゃんのことを許し、それからクラスのみんなに誤解していたことを謝りました。

そして今では——

〇〇ちゃん、ほんとにまたするの……？
私、昨日もあんなにしたから、もう限界で……

ダメだよ、ミコちゃん。毎日いーっぱい射精しないと。
他の子にあんなことしたら、今度こそ本当に
逮捕されちゃうんだから



う
う
う...

ほら、私の中使っていていいから...ね？



そして今では、ミヨちゃんの専属搾精士さんとして
彼女のオチンチンを毎日いーっぱい搾っています♡

FIN